

## 早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 1月分 各業界からのコメント

### ◎建設業

- ・売上、採算ともに、年明け以降やや低調であり、不透明感が増している。
- ・コロナウイルスの影響がまだ続いている。しばらくは悪い方の影響が続きそう。
- ・今月に入り新型コロナ感染が拡大傾向にある。景気も上向き始めたが、ここにきてダウン傾向になるのか心配である。
- ・建設業界の若手従事者の採用がままならず、高齢化がますます進む状態。働き方改革の推進とDX化に注力しなければならない。
- ・引き続き感染予防を徹底しており、感染者の発生なし。12月の忘年会は社内的に自粛を推奨した。新年式は開催するも短時間とし、祝賀会は全社的に中止とした。
- ・原油高騰と設備部品の不足により、時期や採算上一部の建設資材の仕入に影響が出ている。

### ◎製造業

- ・機器・部品の調達が一部困難になり、製品として完成せず、お客様への納期確定ができない。そのため、売上修正を余儀なくされつつあり、大変不安である。
- ・酒造タンク関係が7割ほど戻ってきたようである。
- ・従業員不足について、求人は引き続き行っているが、なかなか決まらない状況。

### ◎卸売業

- ・コロナ・オミクロン株等のニュース・メディアに対し、国民が過敏になりすぎているように思う。
- ・新型コロナウイルス感染者減少に伴い、外食産業等の業務需要が回復傾向にあったが、オミクロン株の出現により、先行きが見通せない。
- ・繁忙期が過ぎ、落ち着いている。
- ・水産物は日本勢の買い負けにより原材料の品薄と仕入れ価格高騰が続く。価格転嫁できず厳しい状況。

### ◎小売業

- ・新型コロナウイルスによる影響がある。
- ・新型コロナウイルスによる影響や降雪の影響で売上が低迷している。
- ・昨年は大雪が続き、大きく売上が下がったのに対し、今年は昨年ほどの天候影響を受けておらず、売上は順調に推移。天候によるプラスの影響は目に見えてわかるものの、リベンジ消費か否かの判断は現時点では難しい。
- ・拡大傾向にある新型コロナウイルスの新たな変異株の影響次第では、先行き不透明な状況になる可能性あり。
- ・1月はクリアランスセール月のため仕入単価が低く、次月以降は通常価格体制に切り替わることから、仕入単価は上がる予定。

## ◎サービス業

- ・ 昨年は大雪による売上減であったが、今年は一昨年に戻りつつある。
- ・ 今後数か月はオミクロン株の感染拡大により消費行動が低迷する恐れがある。短期に収束させ、政府の消費喚起対策で春の消費活動が一気に活性化することを期待している。そうすれば日経平均3万円越えにも期待できる。
- ・ 新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあったため、経済活動が動き出すかと思ったが、オミクロン株の市中感染などによりまた感染者数が増えており、地域経済にも悪い影響とならないか心配。
- ・ 感染力の強いオミクロン株が蔓延すると、国内でも欧米諸国のように社会インフラに深刻な影響が出るのが懸念され、同様の事態とならないような対策が必要。
- ・ 年末は、デルタ株の鎮静化により一定の来客の回復が見られたが、オミクロン株の急激な拡大により利用動機、マインドの後退の恐れがあり、予断を許さない。
- ・ 毎年1、2月は売上が伸びない月。加えてオミクロン株、第6波と、新型コロナウイルスの影響で不安な状態である。
- ・ 12月に入り、人の動きが出てきた事で、少しずつ回復するかと期待していたが、思っていた以上の回復には至っていない。また、オミクロン株などの変異株が出てきた事で、今後動きが低下するようであれば頭が痛い。
- ・ 新型コロナウイルスによる影響は、ワクチン接種が進み規制が緩和されことで、経済活動が緩やかに回復し、ある程度抑えられた。ただし、今後オミクロン株の拡大による第6波が懸念されるため、業績の見通しは楽観視できる状況ではない。感染予防対策費を継続して確保する必要があり、設備投資マインドを抑制することになる。
- ・ 昨年12月中旬から改善傾向となり、本年に入ってから、前年というより前々年を上回る日が続いてきたが、国内でオミクロン株が拡散し始めた頃からこの勢いが低下し、また下降方向に転じ始めた。
- ・ 人の往来を必要とする業態にとっては大きなダメージであり、この状態で3年目を迎えることは大変不安である。早くこのコロナが風邪やインフルエンザのような扱いと同等になることを願うばかりである。
- ・ 再度の感染拡大が窺えることから、外出自粛などの制限が危惧される。
- ・ 円安が続いているため、燃料や輸入物資の高騰が経営に影響を与えていたが、今後の変動に期待したい。
- ・ 半導体不足の影響でサーバー等機器の納期が見えず、システムの納期遅延が懸念される。
- ・ 建築設計業、建設業はウッドショックや建築資材全般の高騰などで苦戦している。
- ・ また、半導体不足が設備製品の不足を招き、納入困難になっている。そのため、工事の発注や竣工に大きな障害が出ている。
- ・ 一昨年の年末・年始に比べれば、多少人流があり良かったが、従業員の減少が止まらず労働力不足。